推 薦 図 書

学　科：　文学部　現代日本文化学科	氏　名：　渡辺 誠治
書　名：　現代中国文学 茅盾　(作品：子夜)	
著者・訳者：　茅盾著	
出　版　：　河出書房新社　1970	

〈推　薦　文〉

「子夜」は近代中国の長編小説。「子夜」とは「真夜中」という意味。1933年刊。舞台は1930年代の上海。1930年代と言えば，中国全土は（半）植民地状態，上海には西洋列強と呼ばれる国々の租界が形成されていた時代だ。日本もそちら側だ。その眼差しは現在も十分に“健在”なようで，極々一部の作家を除いて，近代以降の民間のアジア人（アーティストや小説家や起業家など）は日本人の「世界」に登場しない（政治家は別）。

近代とは「真夜中（子夜）」だったのだ。日本の中学や高校で学ぶ日本史では，近代は「真夜中」というより「夜明け」のイメージで描かれているように思う。真夜中と夜明けの間の時差を埋める努力がこれからの日本人には必要だと思う。

「子夜」は，上海の民族資本家が起業を企てるも列強の圧力や労働運動などに挟まれ，やがて没落していく過程を，様々な人間模様を交えて克明に描く社会派ハードボイルドの傑作だ。

半植民地時代の中国（日本以外のアジア）を舞台とする，アジア人による長編の社会経済小説なんて，なかなか読む機会，ないでしょ。だから，推薦した。

活水の図書館には，ちゃんと置いてある！

上の書名で検索してみてください！